

アライグマ対策の実例

川道美枝子 関西野生生物研究所 立命館大学客員研究員

アライグマの対策としては現在のところ捕獲してその地域から排除することが挙げられる。2005年に外来生物法 2004年に成立した外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）により、アライグマは特定外来生物に指定され、各地で捕獲による対策が進められ、環境省はアライグマの根絶を目指しているが、野外で繁殖し数を増加させているアライグマの根絶はなかなか難しい。

対策が開始されて積極的な捕獲を続けることで捕獲数が減少した場合でも、実際にアライグマが少なくなったのか、アライグマの捕獲をすることが難しい山中に生息するのか、罠をかける地点がアライグマの行動に対応していないのか、罠に入らないアライグマが増えたためなのかは科学的に検証することが難しい。しかしながら、捕獲による対策が成功した可能性の高い京都府舞鶴市の捕獲体制の紹介と捕獲数の減少が社寺の痕跡調査結果とかなり一致している事例を紹介したい。

舞鶴市でのアライグマ捕獲対策は2003年から開始され、2008年までは有害捕獲のみであったが、2009年から外来生物法に基づく捕獲と有害駆除が並行して行われている。捕獲数は（1月から12月を1年とする。資料提供：舞鶴市産業振興部農林課）、2003年が1頭、2004年が9頭、2005年が37頭、2006年が67頭、2007年が61頭、2008年が99頭であった。有害駆除のみの捕獲の場合、農作物被害以外には対応しない場合が多いので、外来生物法に基づく捕獲が開始されると、市街地での出没の場合や直接の被害が無くとも捕獲されるようになるので、捕獲数は増加する。

月 年・区別		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2009年	有害	0	0	16	6	8	16	6	12	5	9	0	0	78
	外来	0	0	0	3	6	3	7	5	10	13	11	10	68
2010年	有害	0	0	12	6	6	20	5	6	6	14	0	0	75
	外来	7	12	4	4	6	8	8	4	7	11	15	7	93
2011年	有害	0	0	18	11	10	5	11	3	4	9	0	0	71
	外来	3	3	2	2	5	4	2	7	5	3	2	3	41
2012年	有害	0	0	3	3	8	4	0	3	4	2	0	0	27
	外来	0	1	1	3	6	9	0	0	0	0	1	1	22

表1 京都府舞鶴市のアライグマ捕獲数の変遷

表1のように外来生物法による捕獲が開始されて捕獲数が増加している。2010年の168頭が最も多く2012年は49頭に減少した。これは2010年のおよそ3分の1以下である。

捕獲による対策をより有効にさせるために、アライグマの侵入状況を的確に知ることが重要である。アライグマは主に夜行性のため目撃は多くないことから、アライグマが残した爪痕や足跡の生活痕跡を調べるのが有効である。社寺にはアライグマが訪問したり建



写真1. 重要文化財指定の神社の柱を上るアライグマ。
撮影場所弘前市。写真提供、弘前市。



写真2. アライグマが柱につけた爪痕。5本の爪痕が明確に分かる。撮影場所、京都市左京区の寺。

造物に侵入した際にアライグマ特有の痕跡が多く残されている。建造物に侵入する場合、多くは柱を登る(写真1)。柱を上下した際、約4cm幅に5本の爪痕が数えられる(写真2)。また、泥や煤のついた足跡をつけることも多いが、特徴的な長い5本指の跡をつけるので、他の動物と間違えることは無い。

爪痕や足跡の色や、つけられた状況で、痕跡の新旧もある

程度判定できる。古い社寺の柱や袖板の木材は黒ずんでいるが、爪で引っかかれた痕跡には木材の白い地色が現れる。その白い爪痕は時間が経過すると次第に黒ずんでくる。爪痕が日光や風雨にさらされる位置にあるかどうかで差はあるが、ほぼ1年で爪痕は赤みがかかり、5年で周囲の木肌の色と同じになる。白い爪痕がなければ、最近は侵入していないと判断できる。泥や煤のついた足跡も時間がたつと薄れてくるので、侵入時期をある程度判断できる。

関西野生生物研究所は京都府舞鶴市の徹底捕獲開始前の2008年に全域の社寺アライグマ痕跡調査を行った(161社寺)。この資料により全域にアライグマが拡がっていることと、どの地域に特にアライグマ侵入が多いかが明らか

になり、舞鶴市によるアライグマ対策の基礎資料の一つとして役立った。舞鶴市の捕獲対策により捕獲数が明らかな減少傾向があることから、2012年に再度の全域社寺痕跡調査を行った(164社寺調査)。2008年には建造物内部(天井裏等)へ侵入した新しい痕跡は68社寺だったが、2012年はおよそ半数の32社寺まで減少した。建造物内部へ侵入した古い痕跡は2008年の23社寺から45社寺に増えている。一方、建造物内部には侵入していないが、新しい訪問痕跡は2008年16社寺、2012年に30社寺と増加している。しかしながら、新しい建造物内部への侵入痕跡と新しい訪問痕跡の合計を比べると2008年は84社寺、2012年は62社寺であり、新しい痕跡は2012年に減少している。社寺の新しい痕跡が減少した傾向と捕獲数の減少は一致している。このことから、舞鶴市のアライグマ捕獲数減少は実際にアライグマ生息個体数が減少したことを反映しており、痕跡調査による検証が実効性のある可能性が示唆される。